

  <p>世界へのプレゼントになろう</p> <p>RI会長 K. R. ラビンドラン</p>	<p style="text-align: right;">2015-2016年</p> <h2 style="text-align: center;">海南東ロータリークラブ</h2> <h1 style="text-align: center;">ROTARY CLUB OF KAINAN EAST</h1> <p style="text-align: center;">RI District 2640 Japan</p>
---	---

第 1857 回例会

平成 27 年 12 月 21 日(月)

12 : 30 ~ 海南商工会議所 4F

委員会別 クラブ協議会

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」

3. 出席報告

会員総数 49 名 出席者数 30 名
出席率 61.22 % 前回修正出席率 63.27 %

4. 会長スピーチ



会長 阪口 洋一 君
みなさん、こんにちは。
ご出席ありがとうございます。
本日が今年の最終例会
となります。

今年ほど地区におけるト
ラブルの多い年度はいまだ
かつて無かったと思います。
しかしながら辻ガバーの就
任でやっと民主的な地区運
営がなされ、雨降って、地
固まるの例えのように地区

に落ち着きが戻り本来のロータリー活動が行われる
ようになりました。

当クラブからも谷脇さん、花田さん、寺下さん、中
西さんが地区の役員として参加していただき、地区の
発展に寄与していただいていることはクラブの誇り
と思います。

12月の辻ガバーのメッセージの要約をご紹介します。

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉
仕の理念を奨励し、これを育むことにある。その最終
目標はやはり『世界平和』である。熱心にロータリー
の奉仕活動を実践されている多くのロータリアンで
すら時には、『世界平和なんて夢である』とさりと
言ってのけられる。

ロータリアンの本音はどこにあるのでしょうか。私
たちロータリアンの活動は、『世界平和』にとって速
効性はないのですが、私たちは『超我の奉仕』、『最も
奉仕する者、最も多く報いられる』のもとに、『四つ

のテスト』を常に念頭におき精進を積んでいるところ
です。私たちロータリアンは、現状の奉仕活動やその
成果にただ満足するのではなく、次の一段上を目指し
て、常に世界平和を念頭に、ことを進めるべきと考え
ます。これが、不可能を可能に変える世界平和実現へ
の筋道だと考えます。特に新世代の若者たちを、世界
平和に貢献しうる有能な人材として育てることが重
要であります。

当クラブが2月に台湾の彰化東南RCと共にフィ
リピンのマンドゥエイイーストRCを訪問し奉仕活
動を行うことも大きな世界平和への貢献であると思
います。訪問される会員の方に感謝申し上げます。こ
の日は、地区大会と重複しておりまして、地区には申
し訳ないのですがロータリーの寛容の精神に免じて
ご了解頂きたいと思ひます。

本年は本当にお世話になり有難うございました。1
月の新春夫婦例会でお会いできることを楽しみにし
ております。

5. 幹事報告

幹事 横出 廣 君

特にありません。

6. 委員会報告

○国際奉仕委員会

委員長 深谷 政男 君

2月25日から28日まで、フィリピンのマンドゥエ
イーストRC訪問の参加者を募集しています。よろし
くお願いします。

7. 委員会別 クラブ協議会

各委員会別に本年度の活動について、意見交換を行
いました。

第2640地区 地区大会

2016年2月27日(土)~28日(日) 和歌山市

2月27日 本会議 (ルミエール華月殿)

RI 会長代理歓迎晩餐会 (ホテルアバ
ローム紀の国)

2月28日 本会議、記念講演ほか (和歌山県民
文化会館大ホール)

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：阪口 洋一 幹事：横出 廣 SAA：千賀 知起

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail : info@kainaneast-rc.jp

8. 閉会点鐘

次回例会

第 1858 回 平成 28 年 1 月 6 日(月)

マリーナシティ ホテル 18:30~

2016 年 新春夫婦例会

Rotary NEWS

チュラロンコーン大学(タイ)の 平和センターが 10 周年

各地で平和の推進に取り組む専門家を養成するロータリー平和センター。世界に 6 カ所ある平和センターの中でも、チュラロンコーン大学(タイ)の平和センターは、すでに平和関連の実務経験のある人たちが専門課程の修了証を取得できるユニークな存在です。教授陣からだけでなくほかの学生からも学ぶことを重視しているこの平和センターは、今年で 10 周年を迎え、これまでに 69 カ国、355 人の平和フェローを輩出しました。同平和センターのプログラムの特徴について、副ディレクターであるジェン・ワイドマンさんは次のように説明します。「重点は 2 つあり、一つが仲裁の段階、理論分析などといった学術的スキルを学ぶこと。もう一つが、専門家として変革を遂げることです。さまざまな実務経験を持つ人たちが 3 カ月間共に学び、質問や討論を通じて、自分がこれまで信じてきたことを一つひとつ徹底的に見直し、考えてもらいます。中には修了までに、まったく見方が変わる人もいます」常に変化していくカリキュラムを指導する教授陣は、タイ内外から集まっています。フェローは、タイ国内で 1 回、さらに国外にある紛争後の地域で 1 回の実地研修を通じて、それまで学んだことを応用します。

チュラロンコーン大学ロータリー平和センターの 10 周年記念行事は、今月末に開かれるコンファレンス、「Innovating Global Peacebuilding」(世界平和構築における革新)で幕を閉じます。同平和センターではまた、元フェローがそれぞれの体験を語るビデオを集めており、センターのウェブサイトでご覧になれます。記念行事の最新情報は、ソーシャルメディアでぜひフォローしてください。

(ハッシュタグ: #rotarychula10)。

ともに社会を築く

メキシコでの身障者支援プロジェクト

身体障害者の支援を目的とした、メキシコでのロータリー活動をご紹介します。

同国で活動する支援団体 ALEM は、「働けない、家族

を養えない、家にこもりきり」といった身障者への偏見をなくすため、2007 年以来、職業スキル研修



と車椅子修理サービスを行ってきました。しかし、より多くの身障者のニーズに応える必要がありました。そこで、ALEM 責任者のエリック・フレンドさんは、ロータリーのプロジェクトパートナー候補として、米国とメキシコのクラブにアプローチ。また、ロータリーの奉仕活動と賢明な財務管理への関心から、自らも地元の Cuernavaca-Juárez ロータリークラブに入会しました。

フレンドさんの熱意に応え、米国ペンシルバニア州の Paoli-Malvern-Berwyn ロータリークラブが支援に乗り出し、ロータリー補助金を利用して移動式の「車椅子クリニック」を導入。メキシコ国内のロータリークラブも各地でクリニックの管理運営に協力し、食事の提供や広報を通じて ALEM を支えています。また、ロータリーからの支援によって ALEM の負担が軽減された分、低コスト(3~18 ドル)で車椅子を修理できるようになりました。現在 ALEM では、職業研修でスキル(塗装、いす張り、溶接など)を習得した 10 名の身障者がスタッフとして勤務しています。フレンドさんは、ロータリーとの協力活動が、身障者だけでなく社会全体に変化をもたらし、さらには人びとの認識を変えていると話します。

同様に、ディレクターのマイラ・ソラノさんは、ALEM が身障者の可能性を開花させ、変化を生み出す場所だと強調します。「身障者が有する多くの選択肢、そして身障者とともに社会を築く必要性を訴え、身障者も職業人になれることを人びとに伝えること。それが私たちの活動です。身障者もまた、手を使い目を生かし、チームワークとアイデアを育て、協力して新しいことに挑戦しなければなりません」

ソラノさんはまた、「地域社会のために活動するロータリーの気概を肌で感じる事ができた」と今回の活動を振り返りました。

Rotary ロータリー国際大会



2016年5月28日~6月1日
韓国・ソウル

<http://www.riconvention.org/ja/seoul/register>

第 2640 地区ジャパンナイト

5 月 28 日(土) 19:00~ ハヌソ(会賢店)

12月は 疾病予防と治療月間です